

鉄道中吊り広告から地域をみる



早いもので夏の季節の到来です。温暖化の進行もあり、地球の気温も上昇しており、今年の最高気温を何処で記録するかなど話題とされる日々も近いことでしょう。

本レポートでは、自社広告と他社広告との「自社：他社」比率の変動が目立ちます。調査開始時点では7：3で他社が上位でしたが、最近では比率が接近しており、6月の調査では自社が61.2%（実数230）で他社を圧倒しました。

今月から「ミニ特集」の執筆者が交代します。新しい視点からの多彩な話題の提供にご期待ください。

2018年6月レポート

・調査対象路線 東京圏の次の16線

- ①京浜急行線 ②JR 京浜東北線 ③東急田園都市線 ④小田急線 ⑤京王線 ⑥JR 中央・総武線 ⑦西武線 ⑧東武東上線 ⑨東武伊勢崎線 ⑩京成線 ⑪東京メトロ銀座線 ⑫東京メトロ丸の内線 ⑬東京メトロ半蔵門線 ⑭都営新宿線 ⑮都営浅草線 ⑯JR 山手線
埼玉県関係の次の12線

- ①JR 宇都宮線・高崎線 ②JR 京浜東北線 ③JR 武蔵野線 ④JR 埼京線・川越線 ⑤西武線 ⑥東武東上線 ⑦東武伊勢崎線 ⑧秩父鉄道線 ⑨埼玉高速鉄道線 ⑩つくばエクスプレス線 ⑪東京メトロ有楽町線 ⑫東京メトロ副都心線 ⑬東京メトロ半蔵門線 ⑭東京メトロ南北線 ⑮東京臨海副都心線 ⑯東急目黒線・田園都市線

・調査月日 平成30年6月7日（木）

・調査結果 東京圏全体と埼玉県関係に大別してまとめました。

東京圏全体

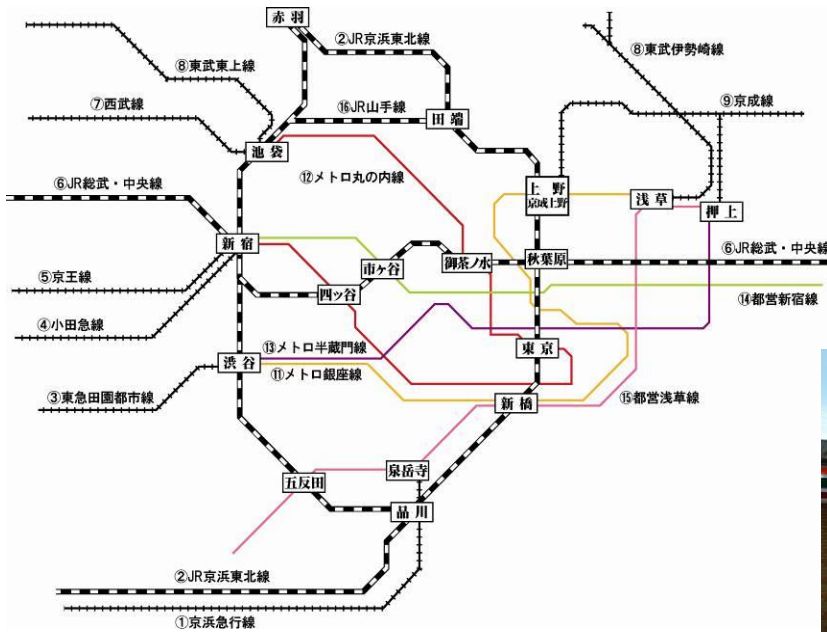
<全体的な状況>

- ① 6月の広告業種別ベスト5は、①旅行レジャー（105）②お知らせ（69）③各種商品（34）④出版（31）⑤不動産（30）の順で、次点は商業施設（17）でした。
② 自社と他社別では、自社が230の61.2%で、これまでの最高値。他社は146の38.8%でした。
③ 空きスペースは68（15.3%）で前月より3ポイント強増加しました。

<各線ごとのコメント>

- ・②⑥及び⑯のJR各線（京浜東北線、中央線・総武線、山手線）は、三線を通じて医療美容などのワイド版広告と空欄の増加が目立つ。自社他社比率が接近し、京浜東北線と中央・総武線では他社が上回るが山手線ではイーブン。
- ・①の京浜急行線は、今月はお知らせと旅行レジャーが双璧。不動産、商業施設と続く。6業種。
- ・③の東急線は、9業種と増加。各種商品をトップに文化芸術。お知らせの順。空欄8は例月どおり。
- ・④の小田急線は、旅行レジャーとお知らせでトップを争う。9業種で多彩。空欄2。
- ・⑤の京王線は、今月も旅行レジャーが首位。9業種だが空欄8が目立つ。
- ・⑦の西武線は、旅行レジャーが例月どおり超ダントツでトップ。10業種と健闘。
- ・⑧及び⑨の東武線（伊勢崎線と東上線）は、前月に引き続き自社率が高く、東上線92.4%、伊勢崎線で91.7%で他家西武線の84.4%を大きく上回る。両線で旅行レジャーがトップ。
- ・⑩の京成線は、トップは旅行レジャー。文化芸術とお知らせが続く。7業種。
- ・⑪から⑬までの東京メトロ各線（銀座線丸の内線、半蔵門線）は、トップは銀座線と丸の内線で旅行レジャー、半蔵門線でお知らせ。三線で出版が上位で久しぶりの登場。自社率も丸の内線と半蔵門線で自社が上回り、銀座線で同率は一時的な状況か？

東京圏調査対象路線図



甲州街道（国道 20 号線）



街並画像 COM より

東京沿線別 広告内容の状況（全体表）

鉄道種別 広告業種	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	合計
	京浜急行線	JR京浜東北線	東急田園都市線	小田急線	京王線	JR中央・総武線	西武線	東武東上線	東武伊勢崎線	京成線	東京メトロ銀座線	東京メトロ丸の内線	東京メトロ半蔵門線	都営新宿線	都営浅草線	JR山手線	
出版		3	2	2	2	3	3				4	5	5			2	31
旅行レジャー	7	1	2	9	6		15	11	11	9	7	9	6	5	4	3	105
金融保険		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15
不動産	3	3			2	5	2	4	6							5	30
教育学校			1	3	2	2					1	2	1		1		13
文化芸術	1	2	3		1	2	1	1		4			1				16
情報通信	1	3	2				3		2	1			1				13
食品			1	2				1									4
商業	3			1	2		2	2		2	1	1	1	2			17
カード						3	1				1		2			4	11
就職		2		2	2			2	1	3				1	1	1	15
宝くじ等						1									1		2
各種商品		5	5	2		7	2		2		1	1	2			8	35
お知らせ	9		3	8	2		2	5	1	4	4	5	8	8	10		69
官公庁																	0
その他																	0
空欄		8	8	2	8	4		1	4					15	14	4	68
合計	24	28	28	32	28	28	32	28	28	24	20	24	28	32	32	28	444
自社	19	8	13	18	12	8	27	25	22	15	13	12	19	3	4	12	230
他社	5	12	7	12	8	16	5	2	2	9	7	12	9	14	14	12	146

東武日光線南栗橋駅

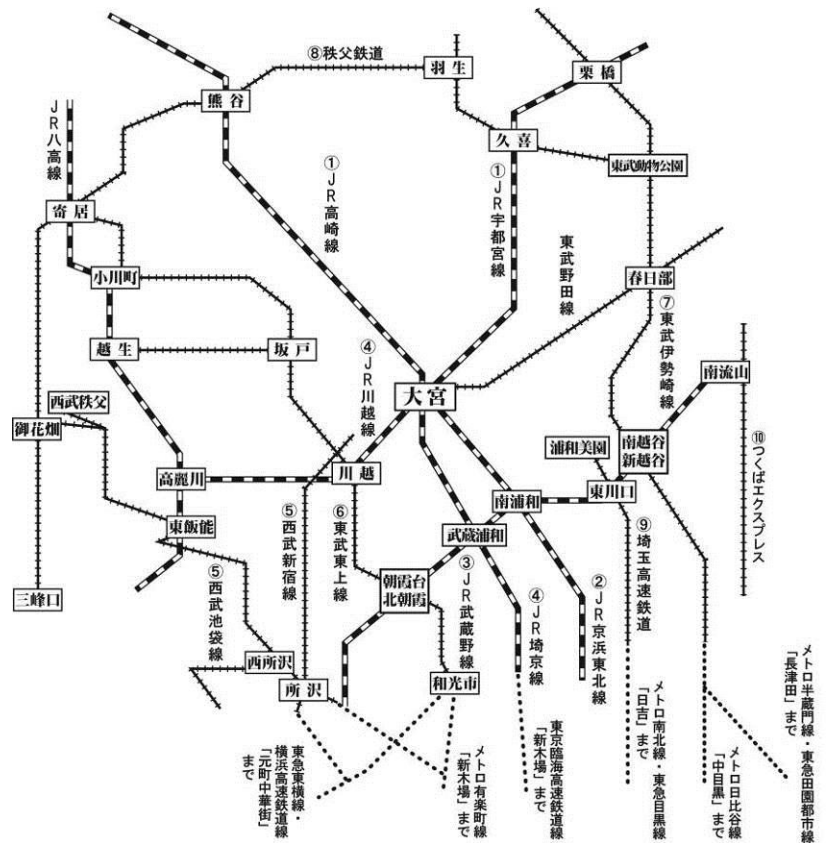


travelstation.tokyo より



南栗橋駅から近くの香取神社

埼玉県内調査対象路線と相互乗り入れ線



埼玉県内鉄道沿線別の広告内容状況

鉄道種別	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	合計			
広告業種	JR宇都宮・高崎	JR京浜東北線	JR武蔵野線	JR埼京・川越線	西武線	東武東上線	東武伊勢崎線	秩父鉄道	埼玉高速鉄道	つくばEX	東京外有楽町線	東京外副都心	東京外口半蔵門線	東京外南北線	東京臨海都市線	東急黒田園都市線				
出版	2	3	3		3				4		8						23			
旅行レジャー	8	1	3		15	11	11	2	12		5						68			
金融保険	1	1	1	JR京浜東北線に同じ	1	1	1		1	JR山手線に同じ	1	メトロ副都心線に同じ					8			
不動産	2	3	3		2	4	6						1							20
教育学校	2		2			1	1		1		2		1							6
文化芸術		2				1	1		1		2		1							8
情報通信		3				3		2												8
食品							1													1
商業						2	2							2						6
カード	2		3			1					3									9
就職	1	2					2	1												6
宝くじ等																				0
各種商品		5	7		2		2	7	5	5							23			
お知らせ					2	5	1	5	5		10						28			
官公庁																	0			
その他																	0			
空欄	10	8	6			1	4	13									42			
合計	28	28	28		32	28	28	28	28		28						256			
自社	9	6	8		27	25	22	9	5		14						125			
他社	9	12	14		5	2	2	6	23		14						87			

- ・⑭及び⑮の都営地下鉄各線（浅草線、新宿線）は、空欄両線で29と更に前月を上回る高水準。今月も両線を通じて東北自治体の旅行レジャーと東京都関係のお知らせが目立つ。

鉄道各線の業種別広告内容は、2・3ページをご覧ください。

埼玉県関係

<全体的な状況>

- ① 埼玉県内に路線を有する鉄道は、JR、東武、西武、秩父鉄道、埼玉新都市交通、埼玉高速鉄道、つくばエクスプレスの7会社ですが、このうち中吊り広告を有する路線を対象に調査を実施しました。
- ② 掲載する中吊り広告は、鉄道各線が次のようにグループ化され同一内容になっています。
 - ・JR京浜東北線、埼京線、川越線、八高線（注：高麗川以南） ・JR宇都宮線、高崎線 ・JR武蔵野線（JR中央・総武線に同じ） ・西武各線 ・東武線（東上線及び越生線を除く各線） ・東武東上線及び越生線 ・秩父鉄道線 ・埼玉高速鉄道線（東京メトロ南北線と基本的に同一内容） ・つくばエクスプレス（JR山手線と基本的に同一内容）

<各線ごとのコメント>

- ・①のJR宇都宮線、高崎線は、旅行レジャーがトップ。7業種と増加。空欄10で前月下回る。
- ・③の武蔵野線は、各種商品をトップに出版、旅行レジャー、不動産、カードで2位争い。空欄6。
- ・⑧の秩父鉄道は、各種商品とお知らせでトップ争い。空欄13で増加。自社他社比率は接近。
- ・⑨の埼玉高速鉄道は、旅行レジャーがトップ。お知らせ、出版と続く。7業種で減少。

－「高齢化社会と優先席」－

人生90年と言われており、団塊の世代が後期高齢者となる2025年頃には3人に1人が65歳以上になると予測されています。

そのような中、旅行、子育て等に自家用車を利用してきた世代が年と共に電車やバス等の公共交通機関にシフトしてきており、優先席の設置や駅のバリアフリー化など、障害のある方も含め高齢者にとって電車を便利に利用することが出来る環境が整ってきています。



高齢者と一言でかたづけますが、高齢者とは何歳以上を言うのでしょうか？

国連が1956年に出したレポートでは高齢者とは「65歳」以上と定義されています。実際に「高齢者と思う年齢は幾つか」と高齢者に聞いてみますと、70歳以上と答えた方が4割で65歳以上と答えた方が2割となっています。



このように、その線引きは曖昧且つ主観的であり、従ってその定義は容易ではありません。

いずれにしても、優先席に座っている若い方が席を譲方が席を譲る場合外見での判断では難しいので、立っている方が辛いように感じたら席を譲るようにしていただければと思う昨今です。(S.O)